

# 油屋おこん と 浮世絵

(歌舞伎 <sup>いせおんどこいのねたば</sup> 伊勢音頭恋寝刃)

飯田良樹

江戸時代に伊勢古市の遊郭であった刃傷（にんじょう）事件をご存じですか？

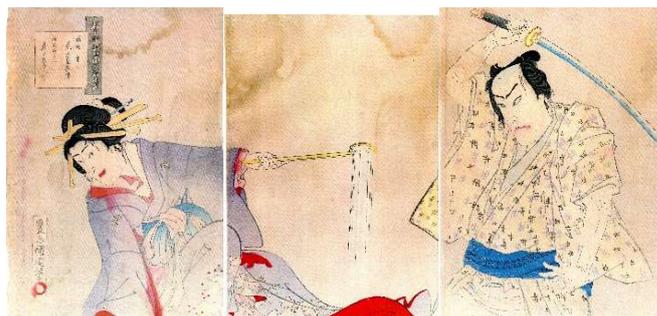
真相は定かではありませんが、寛政八（1796）年五月四日夜、医者孫福齋（まごふくいつき、27歳）は次の日が五節句の端午節句で休診なので、診察を終え九時半（午前1時）より行きつけの油屋へ登楼します。下女お萬がひいきにしているお紺（16歳）を連れてきて、齋の脇差しを下男宇吉に渡して酒宴になります。だが次の間に四国阿波の藍玉商人3人が登楼してお岸、お鹿と酒宴がはじまり、お萬が3人の席へお紺を連れて行ってしまいます。一人残された齋は機嫌を損ね酒がすすみ度を超えてしまいます。元来酒癖の悪い齋は、宇吉より脇差しを受け取り、お萬を切りつけた後に多数の人を殺傷するという事件です。（この齋の気持ちは、昔々バー通いをしていた時に、指名した売れ女が席に座るや否やすぐに他の席へと呼ばれ、ヘルプの女もなしにひとり酒と苦い経験があり、よ〜くわかります。）

この騒動はすぐさま松坂の芝居小屋で脚色されて「伊勢土産菖蒲刀」と銘打ち上演されて評判となったので、大坂で「伊勢音頭恋寝刃」、京都で「いせみやげ河崎踊拍子（かわさきおんど）」と脚色を少し変えて演じられています。「伊勢音頭恋寝刃」は三代目坂東彦三郎が江戸で享和三（1803）年二月に上演して完成されました。

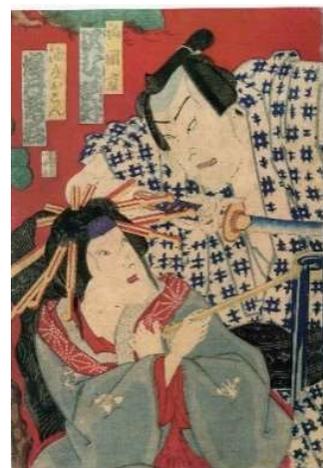
完成された物語は4幕7場。お家のためにと、実父の旧主に必要な青江下坂の名刀と折紙（鑑定書）を探す御師の福岡貢は伊勢古市の女郎お紺と馴染を重ねる。お紺は刀の折紙を手に入れるため悪人方になびき、貢に愛想づかしをする。事情が分からず興奮した貢は仲居の万野と口論の末、あやまって殺し、狂ったように次々と殺人を犯した後に自害する。

江戸時代より江戸・上方で上演が繰り返されて今日に至り、歌舞伎百選に入っています。そのため、

浮世絵の好材料となり、一勇齊国芳・五渡亭国貞・三代目豊国・芳幾・豊原国周などが描いています。



豊原国周 伊勢音頭恋の寝刃 尾上菊五郎



作者と題不明 油屋おこん 岩井紫若



豊原国周「伊勢音頭恋寝刃」提灯の絵柄はなし  
沢村訥升、坂東三津五郎



明治 35 年道頓堀中劇場  
興業チラシ



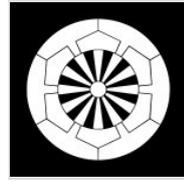
暖簾に油屋の紋  
九枚笹



豊景 杉本屋



提灯絵柄



昭和 63 年 6 月中日劇場「油屋おこん」プログラム  
表紙の題に油屋の紋九枚笹。しかし豊国描く浮世絵  
の提灯には備前屋の源氏車



豊景 「伊勢古市 踊之図」  
備前屋 桜花楼 提灯に源氏車



森光子、草笛光子出演「油屋おこん」の舞台  
暖簾に九枚笹紋

古市には、今回の油屋騒動があった油屋、杉本屋  
それに伊勢音頭で総踊りや迫り上げ舞台を始めた  
備前屋の 3 大遊郭がありました。各々の遊郭は宣伝  
のために店の浮世絵や伊勢音頭を踊っている浮世  
絵を当時の浮世絵師に作らせています。



作者不明 油屋 油楼



揚州周延 (ちかのぶ)

「備前屋桜花楼 伊勢音頭踊之図」

備前屋「桜花楼」で迫り上げ舞台の伊勢音頭総踊  
りと左隅に油屋が舞台であった伊勢音頭恋寝刃の  
役者 3 人が摺られています。

また、伊勢音頭恋寝刃の浮世絵をみると



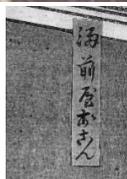
三代目豊国 嘉永5年 題不明 油屋おこん  
祭壇に油屋家紋の象徴である笹が飾られています。



三代目豊国 嘉永5年 題不明 油屋おこん  
福岡貢と油屋おこんと伊勢音頭恋寝刃の役名にな  
っていますが、後ろの提灯絵柄は源氏車となってい  
ます。



表札は備前屋



備前屋おこん

三代目豊国 題不明

油屋騒動が起こったのは油屋ですが、何故浮世絵で  
は舞台提灯の絵柄が備前屋の源氏車なのか？また  
備前屋おこんの歌舞伎があったのか？といろいろ  
な方にお聞きしましたが、明確な回答が得られませ  
んでした。

私論ですが、歌舞伎では油屋として暖簾に九枚笹  
を入れて演じているのに、浮世絵では多くの絵師が  
備前屋源氏車を用いているのは、「伊勢音頭恋寝刃」  
と伊勢音頭が題に付くので、備前屋の伊勢音頭があ  
まりにも有名なため、絵師が勘違いして提灯絵柄を備  
前屋の源氏車で作ってしまったのではないかと推測して  
います。



近鉄鳥羽線上の橋



橋のたもとの石柱

現在、油屋は敷地が近鉄に買収され、掘り下げら  
れて鳥羽線が敷かれ、線路上に架けられた橋のたも  
とに「油屋跡」の石柱のみとなってしまいました。



浄土宗西山禅林寺派



おこん齋の比翼塚

高照山 大林寺

近くの大林寺には、文政十二（1829）年に四代目  
坂東彦三郎が古市の芝居小屋で大当たりを取った  
記念におこんの墓を建立、また昭和4年に関西歌舞  
伎の實川延若が孫福齋の墓を建立して、おこんの墓  
と並べて「おこん齋の比翼塚」として多くの人が参  
っています。